Agilent OpenLAB CDS ChemStation エディション

アップグレード準備ガイド

Agilent Technologies

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2010

本マニュアルは米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形式や方法（電子媒体による保存や読み出し、外国語への翻訳なども含む）においても、禁止されています。

マニュアル番号

M8301-96030

エディション

10/2010

Printed in Germany

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

本製品は、システムが適切な規制機関で登録を受け関連する規制に準拠している場合、ビトロ診断システムのコンポーネントとして使用できます。それ以外の場合は、一般的な実験用途でのみ使用できます。

ソフトウェアリビジョン

本ガイドの内容は Agilent ChemStation ソフトウェアのリビジョン C.01.01 以降について有効となります。

Microsoft ® は、Microsoft Corporation の米国の登録商標です。

保証

このマニュアルに含まれる内容は「現状のまま」提供されるもので、将来のエディションにおいて予告なく変更されることがあります。また、Agilent は、適用される法律によって最大限に許可される範囲において、このマニュアルおよびそれに含まれる情報に関して、商品性および特定の目的に対する適合性の暗黙の保証を含みそれに限定されないすべての保証を明示的か暗黙的かを問わず一切いたしません。Agilent は、このマニュアルまたはそれに含まれる情報の所有、使用、または実行に付随する過誤、または偶然的または間接的な損害に対する責任を一切負わないものとします。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がこの文書の条項と矛盾する場合は、別の契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

このマニュアルで説明されているハードウェアおよびソフトウェアはライセンスに基づいて提供され、そのライセンスの条項に従って使用またはコピーできます。

安全に関する注意

注 意

注意は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、製品の損害または重要なデータの損失にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警 告

警告は、危険を表します。これは、正しく実行しなかったり、指示を順守しないと、人身への傷害または死亡にいたるおそれがある操作手順や行為に対する注意を喚起します。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

このガイドでは、Agilent OpenLAB CDS ChemStationC.01.01 ソフトウェアへのアップグレードと分析システムの設定ステップについて説明します。このドキュメントは、ChemStation をアップグレードする前のリソースとして使用してください。

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入

この章では、以前のリビジョンに対する Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 での変更、およびこのガイドの内容に関する情報の概要を説明します。

2 ライセンス方針

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation C.01.01 のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。

3 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 にアップグレードするための前提条件

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation ソフトウェアが正常に動作するための最小要件を記載します。Agilent ChemStation の適切な動作を確保するために満たすべき要件についての詳細情報を記載しています。要件には、PC タイプと性能、ネットワークプロトコル、プリンタタイプ、GPIB/LAN カード、USB-GPIB インタフェース、およびオペレーティングシステムなどが含まれます。

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード方法

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード方法を説明します。これにはアップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。

目次

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入 5

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入 6
Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要 7
OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 に導入された変更と新機能： 10
このドキュメントについて 11

2 ライセンス方針 13

ライセンス方針 14
ライセンス取得に関する検討事項 18

3 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 にアップグレードするための前提条件 21

Agilent ChemStation PC ハードウェア詳細 22
オペレーティングシステムの要件 27
通信コンポーネント 29

4 Agilent ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード方法 31

以前の ChemStation からのアップグレード 32
機器固有のアップグレード説明 37
ご使用の機器の設定 42
アドオンソリューションを使用した ChemStation システムのアップグレード手順 43

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入 6
Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要 7
このドキュメントについて 11

この章では、以前のリビジョンに対する Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 での変更、およびこのガイドの内容に関する情報の概要を説明します。

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入

Agilent Technologies は、新しいバージョンの LC、GC、A/D、CE、CE/MS および LC/MS のマルチテクニック ChemStation をご案内させていただきます。マルチテクニック ChemStation ファミリーは、幅広いシステムで使用でき、機器コントロール、データ取込および管理ができます。モジュール式設計なので、システムによってラボで必要な規模まで拡張や拡大ができます。システムでは、柔軟性のあるデータ管理機能とともに、ツリーベースのナビゲーションが提供されます。

Agilent OpenLAB CDS ChemStation の概要

新機能

Agilent OpenLAB は、ラボソフトウェアのポートフォリオと再使用可能な標準インタフェースを含むオープンアーキテクチャです。科学的データのライフサイクル各ステップに対して、異なる OpenLAB ソリューションを用意しています。OpenLAB ソリューションの 1 つにクロマトグラフ データシステム（CDS）があり、本マニュアルで説明します。その他の OpenLAB ソリューションとして、ECM（エンタープライズコンテンツマネージャー）と ELN（Electronic Lab Notebook）が挙げられます。

OpenLAB CDS には、マルチテクニック、マルチベンダーの機器コントロールを利用してデータの取り込み、分析、解析を行うツールが装備されています。現在、ChemStation と EZChrom のワークフローをサポートしています。

OpenLAB CDS

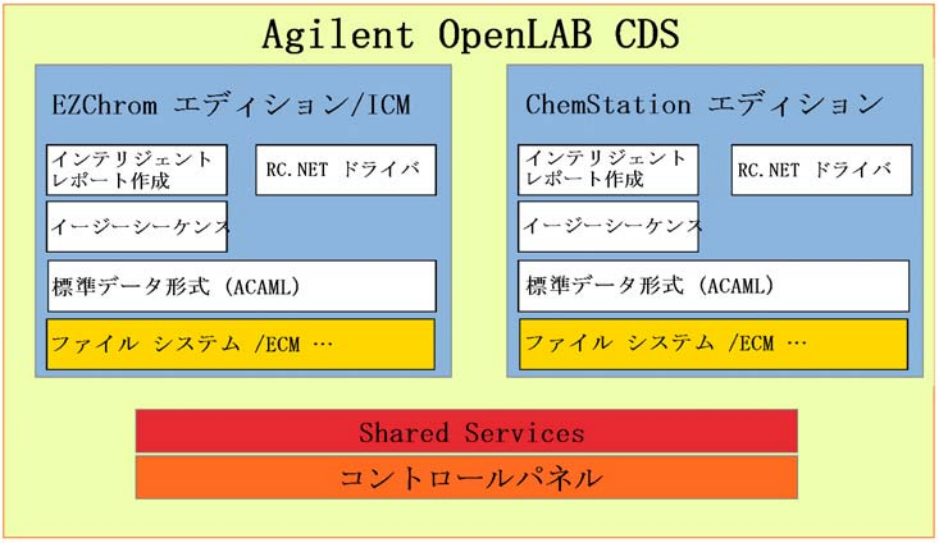


図 1 OpenLAB CDS アーキテクチャ

OpenLAB CDS ChemStation C.01.01 には以下のソフトウェアとインタフェースモジュールが含まれています。

- OpenLAB コントロールパネル

  OpenLAB コントロールパネルには、OpenLAB Shared Services にアクセスするためのユーザーインタフェースがあります。

- OpenLAB Shared Services

  このサービスにはユーザー管理、ライセンス管理、機器管理といった中心的機能が用意されています。これら機能は、すべての OpenLAB モジュールで使用可能です。

- 機器コントロールおよびデータ取込モジュール (ChemStation / EZChrom)

  このモジュールは ChemStation または EZChrom で使用できます。両システムとも下位互換となっているため、各ソフトウェアの以前のバージョンで取り込まれたデータを処理することができます。OpenLAB CDS ChemStation および OpenLAB CDS EZChrom はイージーシーケンス、RC.NET ドライバ、またはインテリジェントレポートなどの機能を共有しています。本ガイドは OpenLAB CDS ChemStation エディションについて説明しています。

OpenLAB Shared Services

OpenLAB Shared Services には OpenLAB コントロールパネルでアクセスします。Shared Services には、すべての OpenLAB モジュールで使用可能な以下の機能が含まれます。

- **機器管理**

  機器についての基本情報を管理することができます。この情報はコンフィグレーションにより、単一 PC からアクセス可能である場合と、ネットワーク内の複数ワークステーションからアクセス可能な場合があります。基本情報とは、機器の名称、ロケーション、ステータス（オンラインまたはオフライン）などです。

- **アクティビティログブック管理**

  ユーザーログイン、ユーザーの作成 / 削除、機器の作成 / 変更 / 削除といったすべてのシステム作業に、集中的にアクセスすることができます。

- **ユーザー管理**

  ユーザー、グループ、ロール、権限を管理することができます。ECM システムまたは Windows ドメインでユーザーを管理する場合、既存ユーザーを Shared Services に設定することができます。

- **ライセンス管理**

  このサービスにより、機器モジュールやアドオンに必要なすべてのライセンスを管理することができます。ライセンスの追加および削除、およびすべてのライセンスのステータス表示が可能です。

  機器を起動すると、ChemStation は必要なライセンスがライセンスプールで利用できることを自動的に確認し、機器を動作させるために必要なライセンスを確保します。機器を停止すると、ライセンスは解放され、他の機器で使用可能になります。

OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 に導入された変更と新機能：

OpenLAB CDS ChemStation C.01.01 には以下の新機能があります。

- インテリジェントレポート

  新しいレポートテンプレートエディタにより、テンプレートの作成および修正を簡単に行うことができます。レポートテンプレートは、Microsoft Business Intelligence Studio でも使用されている標準のレポート定義言語（RDL）で保存されます。

  シーケンスメソッドでレポートテンプレートを参照する場合、そのレポートテンプレートは自動的に結果セットにコピーされます。

  インテリジェントレポートを有効にすると、新設の［レビュー］ビューが利用可能になります。これにより、データファイルのさまざまな組み合わせに対してあらゆるレポートテンプレートを適用することができます。

- メソッド用途

  ChemStation エクスプローラから、マスターメソッドおよびシーケンスメソッドを直接読み込むことができます。**［メソッドの更新］**ダイアログでは、マスターメソッドとシーケンス メソッドを同期することができます。

- データ解析モード

  再計算モードまたは再解析モードを選択することが可能です。再解析モードでは、シーケンスのコンテキスト内のサンプルを再解析することができます（ブラケットキャリブレーションなど）。再計算モードでは、メソッドの異なるサンプルまたはサンプルセットを再計算することができます。各モードに関連する必要機能は、個別のツールバーで利用可能です。

- 結果セット

  コンテナは結果セットと改称されました。結果セットで使用するメソッドは、取り込み中でも修正可能です。すでに取り込んだデータを利用して、独自の結果セットを作成することができます。例えばクロスサンプル計算について、ユーザーが編集した結果セットを利用することができます。

このドキュメントについて

このドキュメントは、既存の Agilent ChemStation システムの更新フェーズで使用できます。

A.03.0x 以降を Agilent ChemStation リビジョン C.01.01 へ

B.0x.0x から Agilent ChemStation リビジョン C.01.01 へ

ドキュメントでは、アップデート方法を説明しています。

新機能については、ユーザーマニュアルとオンラインヘルプに詳細が記載されています。

マニュアル『Workstation インストールガイド』および『コンセプトとワークフロー』は、それに従って更新されており、新しいソフトウェアリビジョンとともに提供されています。

1 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 の導入

このドキュメントについて

2 ライセンス方針

ライセンス方針 14
ライセンス取得に関する検討事項 18

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation C.01.01 のコンポーネントと機能に関するライセンス方針について説明します。

ライセンス方針

OpenLAB CDS ChemStation OpenLAB DCS では、ライセンスをより効果的に使用するため、新しいライセンス方針を導入しています。以前のバージョンとは対照的に、すべての ChemStation、機器コントロール、ドライバ、およびアドオンの各ライセンスは**フローティングライセンス**となっています。あらゆる機器が起動時にライセンス管理からライセンスを要求し、機器を終了するとライセンスを戻すという仕組みです。つまり、インストールする機器の数ではなく、同時に実行する機器をカバーできる十分なライセンス数だけを購入すればよいことになります。ライセンス管理は Shared Services の一部です。

ライセンスは、**カウントライセンス**または**共有ライセンス**のいずれかとなります。カウントライセンスは、関連ソフトウェアまたは機器モジュールごとに 1 つ使用されます。共有ライセンスは、PC または機器ごとに共有可能です。例えば、Agilent OpenLAB CDS ChemStation ライセンスは共有ライセンスです。つまり、ある PC で ChemStation インスタンスを実行する数に関わらず PC 1 つに必要なライセンスは 1 つのみです。

60 日間有効のスタートアップライセンスを、すべての OpenLAB CDS ChemStation のインストール用にご用意しています。有効期限は、アプリケーションを初めて起動した日から起算されます。

ライセンスを必要とする主な機能は以下の通りです。

表 1　主なライセンス機能

ライセンス機能	ライセンスタイプ	対象	コメント
AgilentOpenLABCDSChemStation	PC ごとに共有	すべての ChemStation インスタンス	これは、常に消費される ChemStation コアライセンスです。LC、GC、CE、ADC、CE/MS、LC/MS での違いはありません。
AgilentOpenLABSharedServices	カウント	別サーバーで実行中の Shared Services に対してのみ	OpenLAB コントロールパネルに追加ライセンスは必要ありません。また、ワークステーションで実行中の Shared Services にも追加ライセンスは必要ありません。
Agilent 機器コントロール	カウント	オンラインインスタンスのみ	ライセンスは、ChemStation が機器に接続可能かどうかに関わらず消費されます。機器コントロールライセンスはドライバ製品の一部です。
Agilent LC ドライバ Agilent GC ドライバ Agilent CE ドライバ Agilent ADC ドライバ	カウント	オンラインインスタンスのみ	ライセンスは、ChemStation が機器に接続可能かどうかに関わらず消費されます。
アドオン 3DUV	(機器ごとに) 共有	オンラインおよびオフラインインスタンス (セットアップウィザードで 3D オプションが選択されている場合のみ)	+ このライセンスはオプションです。このライセンスが利用可能でない場合、ChemStation でスペクトル分析が無効化されます。
Agilent アドオン MS	(機器ごとに) 共有	オンラインおよびオフラインインスタンス	MS が設定されている場合には、MS アドオンが必須です。
Agilent アドオン MS デコンボリューション	(機器ごとに) 共有	オンラインおよびオフラインインスタンス (セットアップウィザードでバイオアナライザオプションが選択されている場合のみ)	このライセンスは、デコンボリューション搭載の LC/MS に対してのみ必須です。

アジレント製品の購入価格には、数種類の機能がすでにデフォルトとして含まれています。アジレント製品に含まれるライセンス機能は以下の通りです。

表 2　アジレント製品に含まれる機能

アジレント製品	機能
OpenLAB CDS ChemStation ワークステーション	AgilentOpenLABCDSChemStation
OpenLAB CDS Shared Services サーバー SW	AgilentOpenLABSharedServices
OpenLAB CDS 機器コントロールライセンス	Agilent 機器コントロール Agilent ADC ドライバ
OpenLAB CDS Agilent A/D 用機器ドライバ	Agilent 機器コントロール
OpenLAB CDS Agilent CE 機器ドライバ	Agilent 機器コントロール Agilent CE ドライバ アドオン 3DUV
OpenLAB CDS Agilent GC 機器ドライバ	Agilent 機器コントロール Agilent GC ドライバ
OpenLAB CDS Agilent LC 機器ドライバ	Agilent 機器コントロール Agilent LC ドライバ
OpenLAB CDS CS 3D MS アドオン	Agilent アドオン MS
OpenLAB CDS CS LC/MS デコンボリューション バイオアナライザ	Agilent アドオン MS デコンボリューション

ライセンスの例

例 1: OpenLAB CDS ChemStation ワークステーション

- 以下のライセンスが利用可能である場合: 1x OpenLAB CDS ChemStation ChemStation、2x 機器コントロール、1x LC ドライバ、1x CE ドライバ、1x アドオン 3D UV。
- スタンドアロンワークステーションでの OpenLAB Shared Services については、ライセンスは必要ありません。

- 3D オプションを有効化した LC ChemStation が起動します。以下のライセンス使用します。1x OpenLAB CDS ChemStation ChemStation、1x 機器コントロール、1x LC ドライバ、1x アドオン 3D UV。
- 同一 PC 上で、CE ChemStation を起動した場合。ChemStation はすでに起動中の LC-ChemStation と同一の ChemStation ライセンスを使用しますが、追加で 1x 機器コントロール、1x CE ドライバ、1x アドオン 3D UV が必要となります。アドオン 3D UV ライセンスがないと、ChemStation の起動に失敗する原因となります。

例 2: OpenLAB CDS ChemStation ネットワーク・ワークステーション

- 以下のライセンスが利用可能である場合： 1x OpenLAB 共有サービスサーバー、2x OpenLAB CDS ChemStation ChemStation、2x 機器コントロール、1x LC ドライバ、1x CE ドライバ、1x アドオン 3D UV。
- OpenLAB Shared Services サーバーのライセンスは、Shared Services をサーバー上で起動すると使用されます。
- PC1 で CE ChemStation が起動します。以下のライセンス使用します。1x OpenLAB CDS ChemStation ChemStation、1x 機器コントロール、1x CE ドライバ、1x アドオン 3D UV。
- PC2 で､3D オプションを有効化した LC ChemStation が起動します。3D オプションは利用できませんという警告が表示されます。以下のライセンス使用します。1x OpenLAB CDS ChemStation ChemStation、1x 機器コントロール、1x LC ドライバ。

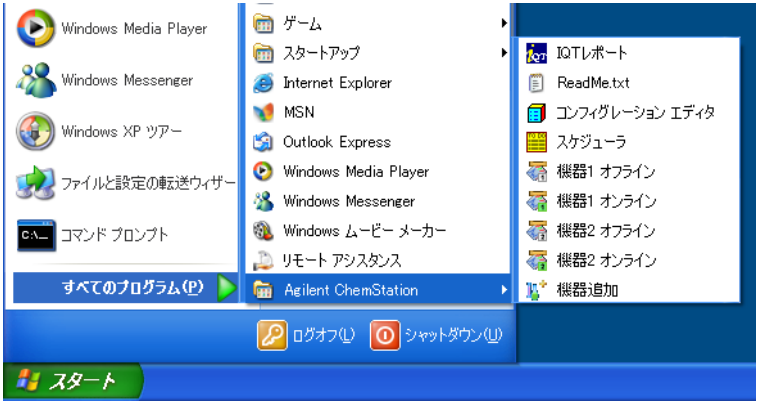
ライセンス取得に関する検討事項

以前のリビジョンからのアップグレード時のライセンス取得に関する検討事項

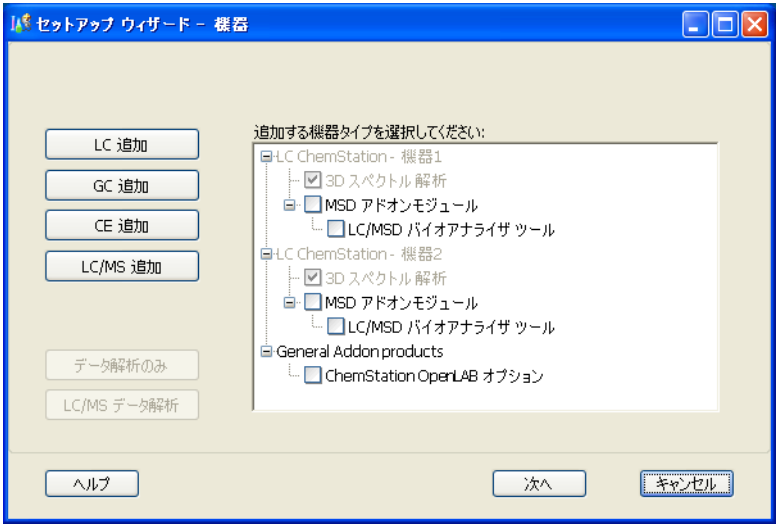
新ライセンス構造が導入されたため、現在のライセンス数を考慮して必要に応じて再計算、再見積もりの必要があります。Standalone Workstation をインストールする場合、必要なライセンス数は前のシステムとほぼ同数と考えてかまいません。ネットワークワークステーションのインストールを使用する場合、種類の異なるライセンスを合計してください。すべての機器および ChemStations を同時に使用しない場合には、必要ライセンス数を減らすことができます（『「ライセンス方針」14 ページ 図』）。

ChemStation B.04.xx における現在のライセンスコンフィグレーションの取得

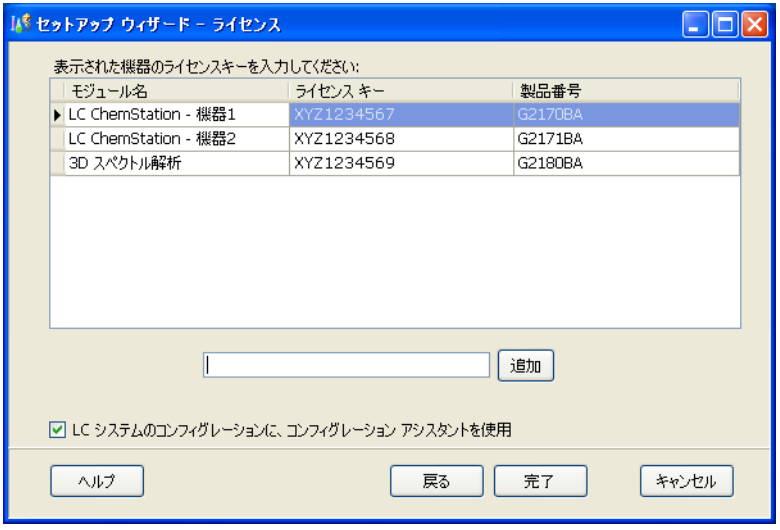
ChemStation B.04.xx の場合、以下の手順で現在のライセンスを確認します。



1 ［機器追加］メニューエントリを開きます。



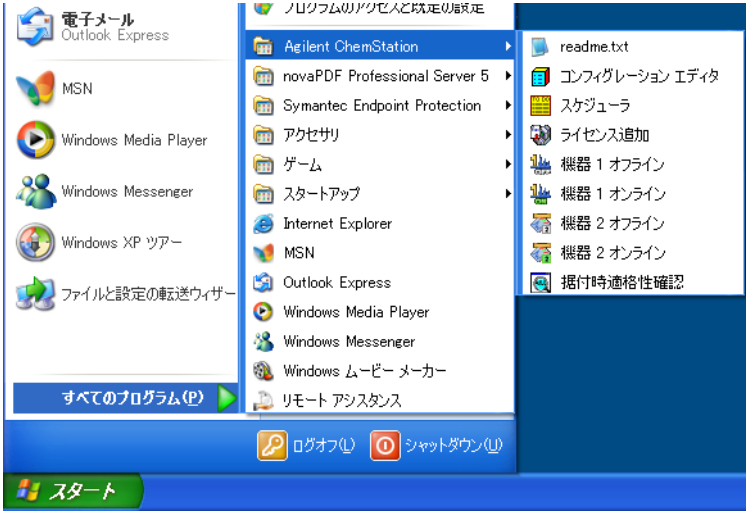
2 機器コンフィグレーションの最初のスクリーンで、次へをクリックします。



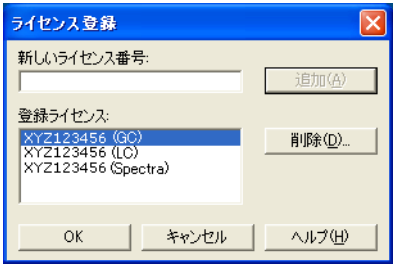
3 現在のライセンス取得済み製品とシリアル番号を記録します。

B.04.01 以前の ChemStation リビジョンにおける現在のライセンスコンフィグレーションの取得

B.04.01 以前の ChemStation の場合、以下の手順を使用します。



1 ［ライセンス追加］メニュー項目を開きます。



2 ライセンスとキーの値を記録します。

3 Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 にアップグレードするための前提条件

Agilent ChemStation PC ハードウェア詳細 22
PC の要件 22
HP 以外のコンピュータ 24
Agilent ChemStation 用のプリンタ 24
アドバンストパワーマネージメント（分析ハードウェアではサポートしません） 26
オペレーティングシステムの要件 27
通信コンポーネント 29
LAN 通信の使用法 29
GPIB および USB-GPIB 通信の使用法 29

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation ソフトウェアが正常に動作するための最小要件を記載します。Agilent ChemStation の適切な動作を確保するために満たすべき要件についての詳細情報を記載しています。要件には、PC タイプと性能、ネットワークプロトコル、プリンタタイプ、GPIB/LAN カード、USB-GPIB インタフェース、およびオペレーティングシステムなどが含まれます。

Agilent ChemStation PC ハードウェア詳細

このセクションでは、Agilent ChemStation を問題なくインストールし動作させるために必要な、PC ハードウェアおよびオペレーティングシステムの要件を記載します。

Agilent ChemStation C.01.01 以降は、Intel Pentium IV 1.5 GHz 以降（Windows XP）、または 3.4 GHz（Windows Vista と Windows 7）を備えたパーソナルコンピュータでサポートされます。GPIB インタフェースカードを使用する場合は、PCI スロットが 1 つ必要です。その代わりに、Agilent USB-GPIB インタフェースデバイス 82357A または 82357B を使用できます。GPIB および USB-GPIB のインタフェース要件の詳細は、『LC/CE インストールマニュアル』を参照してください。

分析機器に LAN 接続を使用している場合は、オペレーティングシステムでサポートされている LAN インタフェースが必要で、Microsoft TCP/IP プロトコルがインストールされている必要があります。すべての PC ハードウェアおよび周辺機器は、Microsoft のハードウェア互換性リスト（HCL）にリストされている必要があります。このリストは、インターネット上の Microsoft のホームページ（http://www.microsoft.com）から入手できます。PC ハードウェアが HCL に記載されていない場合は、システム上で Agilent ChemStation ソフトウェアが正しく動作しないことがあります。

PC の要件

Agilent ChemStation ソフトウェア（バージョン C.01.01）のハードウェア**最小**要件は以下の通りです。

- Intel Pentium IV プロセッサ（Windows XP の場合は 1.5 GHz、Windows Vista または Windows 7 の場合は 3.4 GHz シングルコア）を搭載した PC
- 1,280 x 1,024 Super VGA 解像度、17 インチディスプレイ、16,000 色以上（推奨：19 インチ、解像度 1440 x 900）
- Windows XP の場合は 40 GB ハードディスク（600 MB の空き容量）、Windows Vista または Windows 7 の場合は 160 GB ハードディスク

- DVD-ROM ドライブ
- Windows XP の場合 :512 MB RAM（推奨： 1 GB)、Windows Vista および Windows 7 の場合 :1 GB RAM（推奨 :2 GB)
- MS Windows と互換性のあるポインティングデバイス
- LAN = Ethernet IEEE 802.3 業界基準 10/100 Base T
- ハブと LAN ボード間の LAN 配線は、RJ-45 コネクタ付きカテゴリー 4 以上の UTP
- 最長 100 m のケーブルをサポート
- オペレーティングシステムと互換性のあるプリンタ：
  - 英語版システムの場合は、PCL 5c、5e、5.02、または 6 に対応したプリンタ
  - 日本語版システムの場合は、Canon LBP-430、450、470、1310、または 3410
  - 中国語版システムの場合は、PCL 6 に対応したプリンタ
- Microsoft Windows XP Professional（サービスパック 3)、Microsoft Windows Vista Business（サービスパック 2)、または Windows 7 (Professional または Enterprise) のいずれかのオペレーティング環境 (32 と 64 ビット）
- LAN 通信を使用している場合は、TCP/IP プロトコル対応ソフトウェアがインストール済みであること
- GPIB 通信を使用している場合： 適切な PC や Agilent IO Libraries Suite 15.5 に応じて、82350 (A または B モデル）GPIB ボード、または 82357 (A または B モデル）USB-GPIB インタフェース。IO Libraries Suite のインストールの説明については、ChemStation DVD の **Manuals¥Installation** フォルダを参照してください。

すべての PC ハードウェアおよび周辺機器は、Microsoft のハードウェア互換性リスト (HCL) にリストされている必要があります。このリストは、インターネット上の Microsoft のホームページ (http://www.microsoft.com) から入手できます。PC ハードウェアが HCL に記載されていない場合は、システム上で Agilent ChemStation ソフトウェアが正しく動作しないことがあります。

HP 以外のコンピュータ

Agilent ChemStation は、PC プラットフォームおよび Microsoft Windows オペレーティングシステム向けに、プログラミング標準に準拠したアクセサリや周辺機器を装備した広範囲の互換性のあるパーソナルコンピュータで正常に実行できるよう設計されています。

しかし、Agilent は Agilent ChemStation ソフトウェアを主に HewlettPackard/Compaq の機器でテストしました。このマニュアルに示されたコンフィグレーション情報はすべて、Hewlett-Packard/Compaq Kayak、Vectra および EVO のコンピュータに適用されるものであり、他のベンダーの PC には最適化されていない場合があります。たとえば、GPIB インタフェースの標準コンフィグレーションは、HP 以外のコンピュータのメモリコンフィグレーションと競合する恐れがあります。追加アクセサリインタフェースボードは、ハードウェアに関連するリソース（I/O ポート、割り込み設定、DMA チャンネル）の競合の原因になることがあります。

Hewlett-Packard 以外のコンピュータに対しては、メーカーが提供するセットアップユーティリティプログラムを使用してコンピュータを設定して、同梱されているドキュメントおよびアクセサリを確認し、お使いの PC の設定における、特に GPIB インタフェースのコンフィグレーションに関するリソースの競合を排除します。

HP 以外のコンピュータの、コンフィグレーションの詳細については、マニュアル『OpenLAB CDS ハードウェアおよびソフトウェア要件』を参照し、**システムコンフィグレーションチェッカー**ツールを使用してください。

Agilent ChemStation 用のプリンタ

Agilent ChemStation は、オペレーティングシステムと互換性のあるプリンタと連携するよう設計されています。プリンタは、PC のローカルポート（パラレルポートが望ましい）またはネットワークポートに取り付けます。シリアルポートプリンタはオペレーティングシステムでサポートされていますが、速度のパフォーマンスが制限される可能性があります。ネットワークプリンタは、Microsoft オペレーティングシステムでサポートされているネットワークプロトコルを実行するネットワークサーバーによって共有される必要があります。エスケープコード言語（PCL など）またはページ記述言語（PostScript® など）を変換できるプリンタをお勧めします。ホストベースのプリンタ（GDI または PPA プリンタなど）は、CPU で

より多くのプリンタ処理タスクを行うため、Agilent ChemStation オンラインセッションでの使用にはお勧めしません。

Agilent ChemStation で最良の印刷結果を得るには、HP LaserJet プリンタを使用してください。印刷必要量が少ない場合、高性能 HP Deskjet プリンタも使用できます。推奨されるプリンタドライバのバージョンに関する情報については、readme.txt ファイルを確認してください。

Agilent Technologies は、Windows 環境でサポートされているすべてのプリンタおよびプリンタドライバの組み合わせをテストしているわけではありません。印刷性能と結果は、他の製造会社のプリンタと対応するドライバを使用する場合には、異なる場合があります。

『25 ページ 図　表 3』に記載されているプリンタは、このハンドブックの出版時にテストに合格したものです。

表 3　テストに合格したプリンタ

プリンタのモデル	ドライバコメント
Canon LBP-430	XP SP3/Vista: LIPS4 (Windows 標準)、Win7: サポートしていません
Canon LBP-450	XP SP3/Vista: LIPS4 (Windows 標準)、Win7: サポートしていません
Canon LBP-470	XP SP3/Vista: LIPS4 (Windows 標準)、Win7: サポートしていません
Canon LBP-1310	LIPS4 (Ver 12.71)
Canon LBP-3410	LIPS4 (Ver 12.71)
Adobe Acrobat	バージョン 9.0
PDF-XChange	バージョン 4.0

注記

このリストは包括的なものではなく、このハンドブックのリリース後に入手可能になったプリンタとプリンタドライバは含まれていません。お使いのプリンタがこのリストにない場合、Agilent ChemStation で動作しないという意味ではなく、単にテストされていないことを示しています。

アドバンストパワーマネージメント（分析ハードウェアではサポートしません）

多くの最新 PC の BIOS やオペレーティングシステムは、アドバンストパワーマネージメント (APM) をサポートしています。一定のアイドル時間が経過すると、BIOS によってハードディスクその他のデバイスの電源がオフになり、システムはスタンバイモードに切り替えられます。これによって、PC の消費電力と内部クロック周波数を低下させ、消費エネルギーを節約します。

内部クロック速度を低下させ、ハードディスクの速度を抑制すると、PC は、機器コントロールとデータ取得の要求をリアルタイムに処理できなくなります。通常、これは、内部機器バッファのオーバーフロー、つまりデータ紛失の原因になります。したがって、分析ハードウェアのオンライン操作を実行中のシステムでは APM をオフにしておくことをお勧めします。

オペレーティングシステムの要件

ChemStation リビジョン C.01.01 は、英語のほかに、日本語および中国語にローカライズされています。ご利用の ChemStation に応じて、以下の対応する Microsoft Windows XP Professional(**サービスパック 3**)、Microsoft Windows Vista Business (**サービスパック 2**)、Windows 7 Professional、または Windows 7 Enterprise オペレーティングシステムが必要になります。

- 英語版 Microsoft Windows XP Professional (**サービスパック 3**)
- 日本語版 Microsoft Windows XP Professional (**サービスパック 3**)
- 中国語版 Microsoft Windows XP Professional (**サービスパック 3**)
- 英語版 Microsoft Windows Vista Business (**サービスパック 2**)
- 日本語版 Microsoft Windows Vista Business (**サービスパック 2**)
- 中国語版 Microsoft Windows Vista Business (**サービスパック 2**)
- 英語版 Microsoft Windows 7 Professional (32 および 64 ビット) または WIndows 7 Enterprise (32 および 64 ビット)
- 日本語版 Microsoft Windows 7 Professional (32 ビット) または WIndows 7 Enterprise (32 ビット)
- 中国語版 Microsoft Windows 7 Professional (32 ビット) または WIndows 7 Enterprise (32 および 64 ビット)

注記 Agilent は、これ以外の非英語オペレーティングシステムに対してサポートは行っておりません。

Agilent ChemStation データ取込および解析ソフトウェアでサポートしているオペレーティング・システムは、Windows XP Professional (32 ビット)、Windows Vista Business (32 ビット)、Windows 7 Professional (32 および 64 ビット)、および Windows 7 Enterprise (32 および 64 ビット) です。

サポートしているオペレーティングシステムの最新情報については、最寄りのサービスセンターまたはサポートセンターまでお問い合わせください。

LAN を使用して分析機器に接続する場合は、Microsoft TCP/IP プロトコルをインストールして設定する必要があります。

通信コンポーネント

LAN 通信の使用法

標準 TCP/IP プロトコルを用いて機器を接続する場合は、このプロトコルを PC のネットワークプロトコルとしてインストールしておく必要があります。分析機器を LAN に接続するために使用している LAN アセンブリ、Jet Direct、または G1369A/B LAN のカードの現在のコンフィグレーションは、アップグレードの際も維持されます。

GPIB コントロール機器から LAN 接続にアップグレードする場合は、必要な LAN 通信コンポーネントをインストールし、機器を再コンフィグレーションする必要があります。

GPIB および USB-GPIB 通信の使用法

GPIB 経由で通信する分析機器によっては、OpenLAB CDS ChemStation C.01.01 との通信にも GPIB 接続をしなければならない場合があります。USB-GPIB インタフェースが使用できる場合があります。詳細は、『31 ページ 図　表 4』を参照してください。

表 4　GPIB および分析ハードウェア互換性マトリックス

機器タイプ	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357A	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357B
Agilent 1100/1200 LC	いいえ	いいえ
Agilent 1120/1220 一体型 LC	いいえ	いいえ
HP 5890 GC、4890D GC	いいえ	はい
Agilent 7890A GC システム	いいえ	いいえ
Agilent 7820A GC システム	いいえ	いいえ
Agilent 6890N GC	いいえ	いいえ

表 4 GPIB および分析ハードウェア互換性マトリックス

機器タイプ	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357A	Agilent USB-GPIB インタフェース 82357B
Agilent 6890A および 6890 Plus GC	いいえ	はい
Agilent 6850 GC	いいえ	いいえ
G1600A キャピラリ電気泳動	はい	はい
7100 キャピラリ電気泳動	いいえ	いいえ
35900E	いいえ	いいえ

注意

電子ボードおよび部品は、静電気放電（ESD）に敏感です。

ESD により電子ボードや部品を損傷する恐れがあります。

➔ 必ずボードの端を持ち、電子部品を触れないでください。電子ボードや部品を取り扱う際は、必ず静電気防護具（静電気防止ストラップなど）を使用してください。

4
Agilent ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード方法

以前の ChemStation からのアップグレード 32
ChemStation システムの一般的なアップグレード手順 32
B.0x.0x からのアップグレード 32
ChemStation リビジョン A.xx.xx からリビジョン C.01.01 へのマニュアルアップグレード 36
機器固有のアップグレード説明 37
ご使用の機器コンフィグレーション 37
LC 固有のアップグレード説明 39
GC 固有のアップグレード説明 40
LC/MS 固有のアップグレード説明 40
CE および CE/MS 固有のアップグレード説明 41
ご使用の機器の設定 42
アドオンソリューションを使用した ChemStation システムのアップグレード手順 43
ChemStation C.01.01 でサポートされているアドオンソリューション製品 44

この章では、Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード方法を説明します。これにはアップグレード中のアドオンソリューションへの対処法も含まれます。

以前の ChemStation からのアップグレード

ChemStation システムの一般的なアップグレード手順

注記 システムをアップグレードする前に、システム全体をバックアップしておくことを強くお勧めします。

注記 アップグレードを開始する前に、一般的なアップグレードに関するセクションと、機器固有のアップグレード情報について熟読してください。アドオンソリューションソフトウェアをインストールしている場合は、アップグレード手順を開始する前に 『「アドオンソリューションを使用した ChemStation システムのアップグレード手順」43 ページ 図』のセクションをお読みください。アドオンソリューションが ChemStation C.01.01 でサポートされていることを確認します。GPIB 通信を使用している場合は、アップグレード手順を開始する前にのセクションをお読みください。

OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 でのライセンス

前の ChemStation リビジョン A.xx.xx と B.xx.xx のライセンス番号とファイルでは、新しい OpenLAB CDS にアップグレードすることはできません。『「ライセンス方針」14 ページ 図』を参照し、お取引およびアップグレードライセンスの詳細については、最寄りの販売担当者にご連絡ください。

B.0x.0x からのアップグレード

Agilent Chemstation のアップグレードプロセスの技術的な理解

OpenLAB CDS では、新製品は現行の ChemStation の代替として使用できるようになりました。この新製品の構造では、OLSS サーバでは、機器コンフィグレーション、フォルダ構造、ライセンス情報、およびセキュリティの設定が保持されます。この新製品の構造では、アップグレードは自動の移行プロセスではなく、手順として解釈してください。

Agilent OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード

ChemStation DVD のインストールルーチンを用いて、既存の ChemStation リビジョン B.01.01 および B.04.03 を、リビジョン C.01.01 にアップグレードすることができます。

インストールウィザードでは、以下に示すように、以前のインストールを処理します。

表 5　インストールウィザード

ChemStation バージョンからのインストール	インストールディレクトリ	以前のソフトウェアの状態	バックアップ先	機器データ処理	その他のデータ
B.04.x	同じ	完全にアンインストールされる	Chem32_001（例 - 古いインストールディレクトリと拡張子）	機器ディレクトリ（1、2、3、4）はバックアップディレクトリに保持。インストール後に作成されるすべてのデータに同様の処理を適用。	ライセンスファイルおよび古い GC カラムデータベースもバックアップディレクトリに保持される。
B.04.x	異なる	完全にアンインストールされる	以前のインストールディレクトリ - ソフトウェアを削除 - データはここに残る	上記を参照	上記を参照
B.03.x 以前	同じ	バックアップディレクトリに移動される	Chem32_001（例 - 古いインストールディレクトリと拡張子）	機器ディレクトリ（1、2、3、4）はバックアップディレクトリに保持。	ライセンスファイルはバックアップディレクトリに保持。
B.03.x 以前	異なる	以前のディレクトリに残る	前のインストールディレクトリ	上記を参照	上記を参照

注記 ChemStation C.01.01 は、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 をサポートします。古いバージョンの ChemStation B.0x.0x は Windows 2000 でサポートされてきたため、ChemStation C.01.01 にアップグレードするには、ChemStation アップグレード前にオペレーティングシステムを更新する必要があります。『「PC の要件」22 ページ 図』を参照し、PC の最小要件を確認してください。

注記 ChemStation B.xx.xx からアップグレードする場合、新しい C.01.01 をインストールしても機器コンフィグレーションは自動的に使用**できません**。アップグレード処理終了時に、[OpenLAB Control Panel] の［**機器の作成**］ダイアログで機器を再び設定する必要があります。機器に対して有効な ChemStation ライセンスがあることを確認してください。

注記 ChemStation B.xx.xx からアップグレードする場合、機器データ、メソッドファイル、チューニングファイルなどは、新しい C.01.01 インストールディレクトリに自動的に転送**されません**。アップグレード処理終了時に、これらのファイルをバックアップディレクトリから新しい場所に移動してください。

注記 サービスリリースまたはパッチをインストールした ChemStation リビジョン B.0x.0x をアップグレードする場合、Windows の［**プログラムの追加と削除**］ツールによりサービスリリースやパッチを削除することも、削除せずにアップグレードをインストールすることもできます。アップグレード前にパッチやサービスリリースを削除しない場合、パッチを含む前のバージョンの ChemStation を正しくアップグレードしても、アップグレード後に［**プログラムの追加と削除**］の対応するエントリが残る可能性があります。これらのエントリを後から削除することはやめてください。

注記 アップグレードを開始する前に、すべてのプログラムを終了し、システムを再起動します。

インストール

DVD から直接インストールする場合には、OpenLAB CDS インストールディスクを挿入します。Autorun.inf では、Agilent.OpenLABCDSSetupFromDVD.exe が自動的に実行されます。

ポータブルデータ保存デバイスからインストールする場合には、デバイスをコンピュータの USB ポートにセットし、Disk1¥Installer¥Agilent.OpenLab に移動して、MasterInstaller.exe を実行します。

さらに続けるには、『Workstation インストールガイド』を参照してください。

追加のアップグレードの説明：

アップグレードのインストール中に、セットアップウィザードはユーザーが作成したファイルをバックアップフォルダ Chem32_001 に移動します。これは、ChemStation ユーザーが作成したすべてのファイルを対象とします。ユーザーがファイルをデフォルトディレクトリに保存した場合、各ファイルの保存場所は以下のとおりです（x は機器の番号）。

- Chem32_001¥x¥data¥*.d ファイル：ユーザー作成データファイル
- Chem32_001¥x¥methods¥*.m ファイル：ユーザー作成メソッド
- Chem32_001¥x¥sequences¥*.s ファイル：ユーザー作成シーケンス
- Chem32_001¥x¥hypersequences¥*.hyp ファイル：ユーザー作成ハイパーシーケンス
- Chem32_001¥x¥verify¥*.val ファイル：ユーザー作成システムベリフィケーションテスト
- Chem32_001¥repstyles¥*.frp ファイル：ユーザー作成レポートスタイル
- Chem32_001¥core¥*.mac, mcx ファイル：user.mac を含む特別にユーザーが作成したマクロファイル
- Chem32_001¥core¥*.xml：ユーザー作成 xml ファイル
- 使用する場合の追加マクロファイル

  さらに、以下のデフォルトの場所に保存されたユーザー作成スペクトルライブラリファイルも移動する必要があります。
- Chem¥speclibs¥*.uvl ファイル：ユーザー作成 UV ライブラリファイル

ChemStation B.02.01 から行う場合、データファイル、メソッド、シーケンスのために追加パスを設定できます。これらの追加の場所にあるファイルもコピーされません。これらは、OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 での対応するパスにマニュアルで移動する必要があります。

注記 カスタマイズされたマクロソリューションおよび user.mac は、Unicode ベースのエンコード変更の影響を受けることがあります。

ChemStation リビジョン A.xx.xx からリビジョン C.01.01 へのマニュアルアップグレード

注記 ChemStation C.01.01 は、Windows XP、Windows Vista、および Windows 7 をサポートします。ChemStation A.xx.xx から ChemStation C.01.01 にアップグレードするには、ChemStation のアップグレード前にオペレーティングシステムを更新する必要があります。PC の最小要件、『「PC の要件」22 ページ 図』も確認してください。

ChemStation リビジョン A.xx.xx を ChemStation C.01.01 に自動的にアップグレードすることはできません。アップグレードするには、PC ハードウェアおよびソフトウェアの要件の他、ファームウェア要件も確認する必要があります。前提条件を満たしている場合は、データをバックアップし、現在の ChemStation リビジョンをアンインストールした後に、リビジョン C.01.01 のセットアップウィザードを実行します。他のアップグレード方法としては、サポートされているクリーンなシステムで ChemStation リビジョン C.01.01 をインストールすることです。

インストール後に、必要なユーザー作成ファイルを適切なディレクトリにマニュアルで移動します。必要なデータをすべてバックアップしてください。リビジョン C.01.01 でメソッド、シーケンスなどを読み込むと、新しいファイル形式で保存されます。ChemStation リビジョン C.01.01 で保存されたファイルは、ChemStation リビジョン A.xx.xx での下位互換性はありません。

機器固有のアップグレード説明

ご使用の機器コンフィグレーション

ChemStation C.01.01 へのアップグレードプロセス中に、現在の機器コンフィグレーションを移行することはできません。

1992 年の ChemStation ワークステーションの初回リリース以降、3 種類のドライバオプションが導入されました。

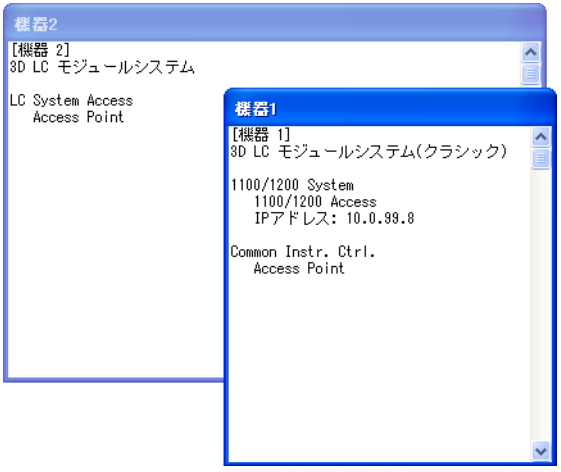
- 「クラシック」ドライバ
- B.03.02 以降の CIC ドライバ
- B.04.xx 以降の RC.Net ドライバ

お使いの機器を再設定するには、現在の機器コンフィグレーションを書き留めてください。

インストールされている機器タイプを確認する方法

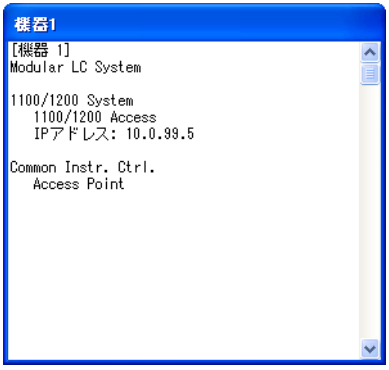
現在の機器コンフィグレーションを確認するには、以下の手順で行います。

- B.04.xx ChemStation の場合、コンフィグレーションエディタでは以下の図が表示されます。



- 「クラシック」ドライバモデルを使用して機器をインストールした場合、コンフィグレーションエディタには「LC モジュールシステム（クラシック）」と表示されます。
- RC.Net ドライバモデルでは、「LC モジュールシステム」とのみ表示されます。
- CIC ドライバの場合、「Common Instr. Crtl.」と表示されます。

- B.04.xx 以前の ChemStation の場合、コンフィグレーションエディタはこのようになります。



これらの ChemStation のバージョンでは**「クラシック」**と CIC ドライバのみが使用可能であるため、コンフィグレーションエディタでは以下が表示されます。

- クラシックドライバモデルでは「Modular LC System」のみが表示されます。
- CIC ドライバの場合、「Common Instr. Crtl.」と表示されます。

ご使用の機器コンフィグレーションの入手

1 **「クラシック」**機器向けの機器コンフィグレーション：

新しい OpenLAB CDS ChemStation エディションでは、IP アドレスまたは GPIB 情報はお使いの機器の再使用に関連するものです。この情報は、後に行うコンフィグレーションのために記録しておいてください。

古いデバイスのすべてがサポートされていないため、お使いのモジュールとファームウェアが新バージョンと互換性があるかどうかを互換性マトリックスで確認してください。

2 GCI デバイスドライバ向けの機器コンフィグレーション：

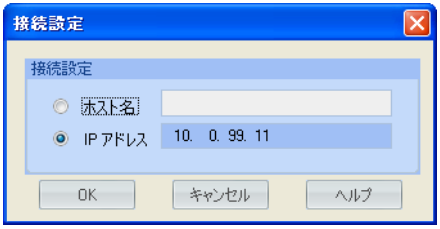
B.04.xx ChemStation では、コンフィグレーションは**「機器」-「機器コンフィグレーション…」**メニューで一体化されます。

B.03.xx ChemStation には、**[機器]** メニューに **[CIC アクセス コンフィグ]** という名の別のメニュー項目があります。

後で使用するために、それぞれのコンフィグレーションおよび接続情報（例： COM ポート番号）を記録しておいてください。

3 RC.NET デバイスドライバ：

RC.Net デバイスは、**「機器」-「機器コンフィグレーション」**メニューにリストされます。



クラスタアクセスモジュールまたは個別のデバイスの接続設定が、お使いの機器に再接続するために必要となります。

LC 固有のアップグレード説明

ウェルプレートコンフィグレーション

以下のウェルプレートサンプラ固有のファイルが機器サブディレクトリの下のディレクトリに保存されている場合、これらのファイルはアップグレードされた ChemStation に移動します。

- **chem32_001¥x¥*.wpt ファイル**：ユーザー作成のウェルプレート定義ファイル

GC 固有のアップグレード説明

HeadSpace、CTC PAL Autosampler、および SimDis および LTM ソフトウェアなどのアドオン製品は、ChemStation ソフトウェアをアップグレードする前にアンインストールする必要があります。

Companion B.01.01 からの GC ChemStation に含まれ、もはや個別のアドオン製品ではありません。

Retention Time Locking ソフトウェアが B.01.0x および B.02.0x. にアドオンとしてインストールされている場合。これらのリビジョンでは、アップグレード前にコントロールパネルの［プログラムの追加と削除］から RTL を削除する必要があります。RTL はリビジョン B.03.01 以降はアドオンではないため、削除の必要はありません。

35900E

G2072BA および G2073BA A/D の製品には、LAN 通信を備えた 35900E が必要です。

LC/MS 固有のアップグレード説明

LC/MSD ファームウェアの更新

Agilent 6100 シリーズ LC/MS と Agilent 1100/1200 シリーズ LC/MSD のファームウェアは、LC/MSD ChemStation ソフトウェアの一部に含まれます。リビジョン C.01.01 に LC/MSD ChemStation をアップグレードした後、LC/MSD ファームウェアを更新する必要があります。

機器ファームウェアをアップデートするには、LC/MSD ChemStation が終了していることを確認してから、プログラム **x:¥chem32¥ms¥firmware¥msupdate.exe**（「x」は ChemStation ソフトウェアがインストールされているドライブの名前）を実行します。

チューニングファイル

リビジョン C.01.01 LC/MSD ChemStation へのアップグレード後、ポジティブおよびネガティブオートチューンを行い、機器のチューニングパラメータを再構築してください。

CE および CE/MS 固有のアップグレード説明

CE または CE/MS 固有のアップグレード説明はありません。

ご使用の機器の設定

このアップグレードでは、機器コンフィグレーションはアップブレード**されません**。LAN および GPIB の通信と、通信変更に関わる機器のコンフィグレーションについては、『機器コンフィグレーションガイド』マニュアルに記載されています。

注記

『31 ページ 図　表 4』で説明されているようにすべての分析ハードウェアに関して、Agilent 82350 A/B カードは OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 でサポートされません。

注記

GPIB 経由の Agilent LC 1100 モジュールまたは 35900E 通信があるシステムでは、OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 へのアップグレード前に、LAN 接続にアップグレードする必要があります。

GPIB 通信を使用する Agilent LC 1100 および 35900E は OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 ではサポートされません。

アドオンソリューションを使用した ChemStation システムのアップグレード手順

注記 アップグレードの前に、インストールしたアドオンソリューションが ChemStation C.01.01 でサポートされていることを確認してください。『44 ページ 図　表 6』を参照し、サポートされるアドオンソリューションと最小のリビジョンを確認します。

注記 アップグレードする前に、すべてのアドオンソリューションを削除します。アンインストールの説明については、個別のアドオンソリューションのマニュアルを参照してください。

すべてのアドオンソフトウェア製品は、既存の ChemStation を OpenLAB CDS ChemStation リビジョン C.01.01 にアップグレード前にアンインストールする必要があります。アドオン製品のアップグレードは自動では行われません。それぞれのアドオン製品によって異なるアンインストール操作は以下の表の通りです。アドオンソフトウェアは、ChemStation アップグレードの後に再インストールする必要があります。

アドオンソリューションのインストール中に、アドオンソリューションプログラムを保持するため、特定の情報が ChemStation.ini ファイル（システムの WINDOWS ディレクトリ内）に書き込まれます。

アップグレードプロセス中に、アップグレードプログラムですべての chemstation.ini エントリが読み込まれ、このファイル内にあるエントリ別にアドオンソリューションが検出されます。アドオンソリューションを前もって削除せずに ChemStation ソフトウェアをアンインストールすると、アップグレードプロセス中に警告が表示されます。

ChemStore または ChemAccess などの ChemStation Plus Family に属しているインストール済み製品は、標準の Windows アンインストール手順を使用してアンインストールする必要があります（[**スタート**] > [**設定**] > [**コントロールパネル**] > [**プログラムの追加と削除**] を選択します）。ChemStation をアップグレードする前に、Windows ルーチンを使用してこれらの製品をアンインストールします。

さらに、アドオンプログラムによっては、アンインストール中には削除されない chemstation.ini ファイル内に特定のエントリが作成されることがあります。これらのエントリは、アドオンソリューションのアンインストール後、アップグレードインストールの前に、chemstation.ini ファイルからマニュアルで削除する必要があります。

ChemStation C.01.01 でサポートされているアドオンソリューション製品

注記

アップグレードの前に、インストールしたアドオンソリューションが ChemStation C.01.01 でサポートされているか確認します。最初からすべてのアドオンソリューションソフトウェアがサポートされているわけではありません。サポートされているアドオンソリューションは、『44 ページ 図　表 6』に記載されています。

ChemStation リビジョン C.01.01 にインストールされる、アドオンソリューションでサポートされているリビジョンは以下の通りです。

表 6　ChemStation リビジョン C.01.01 でサポートされているアドオンソリューション製品

ChemStation リビジョン C.01.01 のアドオンソリューション	ChemStation リビジョン C.01.01 に必要なリビジョン	ChemStation リビジョン C.01.01 からのアンインストール
CTC PAL オートサンプラ G3382AA コントロール GC システム用	A.01.06	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
CTC PAL オートサンプラ G3383AA コントロール LC および LC/MS システム用	A.01.06	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
G2924AA GC 用ヘッドスペースソフトウェア	B.01.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。

表 6　ChemStation リビジョン C.01.01 でサポートされているアドオンソリューション製品

ChemStation リビジョン C.01.01 のアドオンソリューション	ChemStation リビジョン C.01.01 に必要なリビジョン	ChemStation リビジョン C.01.01 からのアンインストール
GC 用 G2887BA SimDis ソフトウェア	A.02.02	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
GC 用 G6586AA 低熱容量 (LTM) ソフトウェア	A.01.01 SP1	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
GC 用 G7300AA Easy Sample Prep ソフトウェア	A.02.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
Active Splitter	B.01.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
G1979A Multi-Signal Output アクセサリ	A.01.01	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
G2725AA Easy -Access	B.02.00	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
G3772AA Masshunter Analytical Studio Reviewer	B.02.00	chemstation.ini 内のエントリを含めて、コントロールパネルにある［**プログラムの追加と削除**］から完全にアンインストールします。
G2201BA CE/MS	ChemStation の一部	

索引

3

35900E 40

A

APM 26

C

CDS 7
ChemStation 10
　フレイバ 8

E

ECM 7
ELN 7
EZChrom 7, 8

G

GC 固有のアップグレードじーしーこゆうのあっぷぐれーど 40
GPIB インタフェース 22

L

LAN 接続 29
LC 固有のアップグレード 39
LC/MS 固有のアップグレード 40
LC/MS 固有のアップグレードえるしーえむえすこゆうのあっぷぐれーど 41
LC/MSD ファームウェア 40

O

OpenLAB コントロールパネル 8, 9

P

PC、テスト済み 24
PC、要件 22

R

RAM 23

S

Shared Services 8

T

TCP/IP 29

V

VGA ディスプレイ 22

あ

アクティビティログブック 9
アップグレード手順
　一般的な 32
アドオンソリューション 43
アドバンストパワーマネージメント 26

い

一般的なアップグレード手順 32
インストール
　ハードウェア 22
インテリジェントレポート 10

か

カウントライセンス 14

き

機器コンフィグレーション 37
機器設定 37
機器
　管理 9
共有ライセンス 14

け

結果セット 10

こ

コンテナ 10
コンピュータ、最小要件 22

さ

再解析 10
再計算 10
最小要件

RAM 23
ハードディスク 22
プロセッサ 22

す

スタートアップライセンス 14

せ

静電気放電（ESD） 30

ち

チューニングファイル 40

は

ハードウェア
インストール 22
ハードディスク 22

ふ

プリンター、サポートされた 24
フローティングライセンス 14
プロセッサ 22

ゆ

ユーザー
管理 9

よ

要件
PC 22
VGA ディスプレイ 22

ら

ライセンス 14, 32
管理 9

www.agilent.com

本書では

Agilent ChemStation をリビジョン A/B.xx.xx からリビジョン C.01.01 にアップグレードする場合に、このハンドブックを使用してください。

このハンドブックでは、Agilent ChemStation のリビジョン C.01.01 へのアップグレードを実行するのに必要なステップについて説明しています。以前の ChemStation リビジョンと比較しての変更点の詳細や、更新された ChemStation ファイル（メソッド、シーケンスなど）の操作方法が記載されています。

このハンドブックでは、Agilent ChemStation を正常にアップグレードして動作させるために必要な、PC のハードウェア要件およびソフトウェア要件を記載しています。

© Agilent Technologies 2010

Printed in Germany
10/2010

M8301-96030

Agilent Technologies